

第1章 はじめに ～研究目的～

公共訓練施設において向上訓練が実施されるようになって久しい。そして向上訓練コース数、受講者数はともに増加されてきた。この傾向は公共向上訓練の発展を示すものとして高く評価されてよいであろう。

しかしながら、向上訓練のねらい及び訓練内容の範囲、水準などの面からみるとかならずしも生産実態に即しているとは言いがたい。

例えば、機械加工全般を見通して測定をそのプロセスに位置づけ、加工全体を鳥瞰できる巾広い技能の育成や、生産を阻害するような非定常状態の再現下における教育訓練を実施することなど公共訓練の独自性を生かした向上訓練コースの開発がのぞまれる。

このような状況から第二期の向上訓練実施へ向けて生産実態にあうような、しかも公共訓練施設における向上訓練として、まさに向上訓練らしい訓練はどのようなものかを検討する必要性を痛感する。

この意味での向上訓練コース設定は次のような観点から進められるべきと思われる。

第一に、今まで向上訓練の実践で蓄積した「よさ」を吟味し、それを土台にして地域社会の変化をさきどりした新しい教育機能をみいだして蓄積された“よさ”に結びつけていくことである。

第二に、技術進歩、生産様式など産業社会の変化にともなって向上訓練に対する地域企業の人々からの期待も変ってきている。例えば、あることが“できる”というだけでなく職務に関連した実務の理論的裏づけをもった技能者が求められている。このような変化傾向を教育訓練の課題としてとらえなおす必要がある。

その際に、公共訓練の外にいる人々の意見を徹底的に聴取すると同時に生産ラインの分析が極めて大切である。なぜかというとな今までの訓練実施側にいる者はとかく外界からの情報にフィルターをかけ、都合のよい点のみを取り入

れる傾向があるからである。

つまり、われわれ訓練実施者側の向上訓練コースはこうありたいという計画を訓練界の外の人々に一端おきかえてその上で向上訓練コース設定のあり方を見直すべきである。

このような考え方にもとづき、不完全ながら昭和59年に戸田勝也、神田茂雄により、“技能診断にもとづく溶接技能者の技術力の向上～公共向上訓練コース設定に関する研究”¹⁾がなされ、その向上訓練の実践も順調におこなわれている。しかしながら、その研究では従来から行われてきた向上訓練の見直しを計画的に行えなかったために教育機能として何が新しくなったのが不明確であった。

このようなことに加えて、向上訓練らしい訓練、“とらえなおし”の向上訓練を職種的、ならびに地域的に拡大したいという意図もあって本研究に着手した。

そして、本研究では、機械系向上訓練のうち「測定法」コースをとりあげ、従来おこなわれた「測定法」コースを見直し、公共訓練施設において実施するにふさわしい向上訓練とはどのようなものか、を実際に向上訓練コースを設定、実施しながら検討することを目的とする。

具体的には次の諸点を検討する。

第一に、向上訓練の約10年の実施経過を吟味し、今まで行われてきた向上訓練の‘よさ’を整理し、それを訓練界の外にいる人々に示すことにより向上訓練の見直しをする。

第二に、向上訓練の内容が生産実態に適合し、生産工程を統合的にみて生産活動のできる技能者の育成をめざし、本研究ではまず、生産現場において測定に関する向上訓練がどのような意味で必要なかを吟味する。²⁾

そして、特に機械加工のベテランを対象として、トータルな技能と実務の理論的裏づけを持てるようにするために自己の技能の診断をする機能をもった“測定技能診断クリニック”という方式をとりあげ、その方式がこの地域企業の人々に受け入れられるかどうかを検討する。

この点については“測定に関する実態測定”(補足資料1)を富山県下の金型関連企業40社に対してアンケート方式で行ない、さらに企業訪問調査を追加する。

第三に、“測定技能診断クリニック”における技能診断、および自主研修でどのような内容・方法をとるかを検討し、富山技能開発センター機械科においてその訓練コースを実施する。

研究期間は昭和61年4月から昭和62年3月を第一期として、“機械系向上訓練研究委員会”をもうけ、その討議を通してこの主旨の訓練実施計画を検討する。そして、第二期でこの計画にもとづく向上訓練の実践を行なう手順となっている。